

鎌ケ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン（農業振興ビジョン）
第2回策定委員会 議事録

1 開催日時

令和4年10月18日（火）午後3時から午後4時35分まで

2 会場

鎌ケ谷市学校給食センター 2階 多目的会議室

3 出席者

(1) 鎌ケ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン策定委員（12名）
藤島廣二委員、吉田昭夫委員、川村誠司委員、山崎明委員、
石井秀一委員、時田將委員、石原孝志委員、鈴木利一委員、
小金谷茂子委員、齊藤勇真委員、酒井京子委員、砂見正子委員

(2) 事務局（2名）

米井課長、小川主任主事

4 傍聴者

なし

5 会議

(1) 議事録署名人の選出

名簿登載順にて、石井委員・時田委員を選出した。

(2) 議題

①アンケートの集計結果報告について

（資料に基づき、事務局より説明）

②将来像及び基本方針、施策・事業の検討について

（資料に基づき、事務局より説明）

(3) 質疑応答

(委員)

資料1の統計データについて、数値というよりは具体例を「見える化」することが大事だと感じた。例えば子供のいない夫婦2人の農家という、高齢

化などもイメージしやすい。そうした想定をすることで更に農家の苦勞が見えてきて、鎌ヶ谷のこれからの農業への対策などへも役立てられると思う。

(事務局)

数字は数字として重要だが、「具体的にこうした方がいる」という様な実態に即した想定を持ち取り組んでいくことが重要、という理解で良いか。

(委員)

その通り。例えば市民が野焼きを迷惑に感じる一方、年齢層の高い農家などでそうした意識が薄い方もいる。そうした実態に近い姿がわかると、農家への苦情などももう少し変化があるかもしれない。

(委員)

販路拡大と地産地消の推進について、鎌ヶ谷には常設の直売所がないため中々実現が難しい。以前JAの経営改善に関する会議で提案したこともあるが、常設直売所の設置は、庭先販売の農家の圧迫になるのではないかという意見もあり、消極的な反応だった。

一方で小規模な農家は、常設の直売所に持ち込むことである程度収入が確保できることもあり、販路拡大や地産地消に繋がるのではないかと感じている。

(事務局)

市としても常設直売所のメリットは大きいと感じているが、現状では計画段階にない。そうした中で可能な支援となると、まずは庭先販売やそれぞれお持ちの直売所を知って頂くことに力を入れていきたい。今後の展開として新規の施設についても期待はしているが、今できる支援としては周知活動が効果的だと考えている。

(委員)

やはり購入先は大手スーパーがメインとなっている。品数が少ないと足を運ぶ人もおらず、集客・ブランド化は難しいだろう。

(委員)

自身が野菜を購入しようとする場合を考えると、小さな直売所や庭先販売だと車を停めづらい。そうした面からも、常設直売所のメリットはあると感じる。

(委員長)

そうした市民の声はあるだろう。実際やるとなると、運営主体が問題になる。

(委員)

茨城県などでは、20%の手数料がかかるが民間で運営し、何店舗か常設しているところもある。中にはレストラン等も併設しているところもあり、かなり集客力があるようだった。

鎌ヶ谷でも、屋根付きである程度の駐車スペースが確保できれば、JAの周

りの空いている農地などで一定の需要はあると思う。本来であれば市やJAが主体となって実施できると良いが、中々動けないだろう。すぐには難しいと思うが、農家が何件か協力して常設販売をしたらある程度客が集まるのではないかと思う。ネット販売等も多い中、「行ってよかった」と感じてもらえるといい。そうなると、やはり10品・20品と品数をそろえる必要がある。場所や人件費といった問題も出てくるだろう。

(委員)

鎌ヶ谷では、産業まつりを毎年開催しており、野菜販売はかなり評判が良いようだ。野菜販売単体よりも、フリーマーケットなど他のイベントと抱き合わせて販売を行うと、より効果的ではないかと感じている。フリーマーケットのついでに野菜を買っていこうと思う人もいるだろうし、野菜を買いに来たついでにフリーマーケットを見る人もいるだろう。互いに相乗効果が期待できるため、そうした連携も検討の余地があるのではないか。

(委員長)

鎌産鎌消も重要な施策であり、今後どう発展させていくかという課題がある。今すぐでなくとも、取組みに組み込んでいくという方向性で検討するのも良いだろう。

(委員)

アンケート結果や資料については分かりやすく、施策もいくつか気になる点はあるが、これらを実現できれば非常に良いと感じる。

八千代市では道の駅に対し役所が出資するなど、かなり力を入れているようだ。鎌ヶ谷でも、役所が力を入れれば同様の取組みは可能だろう。

認定農業者と家族協定の推進については、認定のメリットが減ってきている一方、認定されるためのレベルが高すぎる。労働時間を半分にしたり、収益を前年度より大幅に増やすことなどは現実的には不可能だろう。

法人化については大規模農家でないとメリットがない。鎌ヶ谷では小規模農家が多いのが統計データからもわかるため、ギャップがある。

女性農業者の育成については全面的に賛成する。

農業者の健康管理の推進について、農協では健康診断の受診者が減少しており問題となっている。若い人はそもそも健康診断に行かないし、高齢者は町医者に行くようになってきている。どうにか改善していければいいが、健康診断に行く中堅層の高齢化で難しい状況にある。

新規就農者の確保・育成についてのマッチングは非常に難しい事業と感じる。援農ボランティアについては詳細を把握していないが、梨農家だけでなく野菜や施設園芸の農家等も対象なのか。自身は酪農だが、取り扱えるならぜひマッチングをお願いしたい。今はどの農家も労働力不足だろう。

(事務局)

野菜や施設・露地栽培もすべて対象だが、現在の講義内容は全般的なものであり、それぞれに特化しているわけではない。今後の課題として、実際に求められる作業についての実践的な講義を通じ、農家とボランティアが互いにメリットを感じられるようにしていきたい。

(委員)

スマート農業と簡単に言っても、かかる費用が大きい。役所が農業に重点を置いておらず補助率が低いため、もっと農業に力を入れてもらいたい。便利なサービスでも、補助の限度額が低かったり融資の利率が高いと誰も利用しない。大げさに言えば、2～3年返済据え置き・全額補助などとすれば皆利用するだろう。

(事務局)

スマート農業は国でも正式に法律が制定され、今後の取組拡大と併せてコスト面での補助も大きくなっていくと思われる。生産者アンケート調査結果からも導入コストへの懸念がみえるため、市としても補助していきたいと考えている。

同時に、最も重視したいと考えているのは、小規模農家でも使える機械などを随時PRしていくことである。まずは興味を持ってもらえるよう周知から始め、要望を聞いたうえで補助に繋げていきたいと考えている。

(委員)

牛の搾乳ロボットなどもあるが、1機導入・50頭の搾乳で5,000万円もコストがかかる。原油高・円安で農家が皆困っている状況の中、役所は補助・保護を本気でやっけていかないといけないだろう。最終的に責任を取るのは農家自身だが、出来るだけ農家を離さないような施策を考えなければならないと感じる。

市民農園の基本施策について、企業など民間が運営するというのは、法人から資金を借りるようなイメージか。

(事務局)

現在、企業が運営を行う体験農園などが市川市や近隣の市町村で見られる。管理自体を企業が責任をもって行うものであり、本市の軽井沢でも1件始めている。

(委員)

軽井沢の農園については、利用者があまりおらず中々厳しい状況であるとの話を聞いたことがある。

(事務局)

たしかに場所の問題がある。

(委員)

一般の人は皆市民農園を借りたがっているが、どう管理していくかが重要になる。

また優良農地の保全について、鎌ヶ谷で貸し借りをする場合、どこでどう手続きするか情報管理をもっと密に行うべき。実際にどこかの土地を購入したいと考えた時、すぐに見られるようなシステムを作らなければならない。その際には個人情報への配慮も必要になる。

(事務局)

市民農園自体は、佐津間・東道野辺・北中沢に市が開設しているものがある。適正な管理をまず第一条件にして、利用状況をしっかりと把握しつつ進めたい。

優良農地の情報については、ご意見の通り、情報の一元管理ができていない状況にある。貸借の意向のある方が今後の経営相談を持ち込む際、市や農業委員会などに各々相談を行ったりしているためであり、今後は情報の共有を進めたい。

貸し手希望のある土地の場所や借り手の条件などについて、個人情報に触れないよう配慮した上で、リストに一元化して管理できればと考えている。

(委員)

「各施策における取組内容」資料P1の「(3) 女性農業者の育成」部分の記載について、農業事務所だけでなく「農業の関係機関」といった形で括ってもらいたい。

(事務局)

技術指導とかけ合わせてそのような記載となっていたため、「関係団体」などに修正したい。

(委員長)

非常にいい意見をいただけたと思う。議題1、2ともに内容そのものが間違っているという意見はなかったように思うが、全般としてはこの内容でよろしいか？

(委員)

挙手により賛成、議題1、2ともに承認。

(委員長)

それでは、事務局は本日いただいた意見を踏まえた上で内容を精査し、新規計画の作成にとりかかるようお願いしたい。また、内容については字句の表現を含め事務局と調整をしながら行っていくため、委員長に一任いただきたい。

(4) その他

(事務局)

計画策定の今後の流れについて、現在の予定では、委員が対面で集まる会議は今回が最終と考えている。

1 1月中旬に素案のような形で作成後、庁内会議で誤字脱字や言い回しの微調整を行う。その後、来年1月のパブリックコメントで必要に応じて軽微な修正を行い、委員の皆様へ書面にて報告のうえ、3月に計画完成としたい。

(5) 閉会

事務局より、第二回策定委員会終了の挨拶を受け閉会。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和 4年11月 1日

氏名 石井 秀一

氏名 時田 將